

三三三 北斗だより

令和6年度 第7号
(10月1日発行)
愛媛県立今治北高等学校

「先ず心より学ぶべし」

進学課長 越智 祐治

江戸時代の剣豪、島田虎之助は右の言葉を遺しています。これは恐らく剣道だけでなく他の分野にも当てはまると思います。何かに懸命に取り組んでいても、うまくいく時ばかりではないものです。「強くなりたい」「上手くなりたい」「成績を上げたい」と無我夢中で取り組むことができること自体は素晴らしいことです。ただ、「今までこれで上手くいっていたのだから、このまま続けて大丈夫、と十分な現状分析をせず、一つの方法に固執しすぎると、周囲からの助言に耳を傾けることができなくなり、「スランプ」に陥ってしまうこともあるのではないのでしょうか。

島田虎之助

剣は心なり
心正しからざれば
剣又正しからず
剣を学ばんと
欲すれば
先ず心より
学ぶべし

「先ず心より学ぶべし」とありますが、自分が何かに成功したいと思うならば、まず、立派な人間に成長しようと努力することを「日常化」していきなさいということではないかと、私は捉えています。難しく考える必要はありません。例えば、気持ちの良い挨拶を自分からする、とか、ゴミが落ちていたら拾う、とか、汚れている場所があればきれいにする、とか、散らかっていたら片付ける、とか、困っている人がいたら手をさしのべる、といった行為が「自然に」できる人間になっていくことではないのでしょうか。誰かに言われてすることでも、そういう姿を誰かに意図的に見せようとするすることでもなく、「自分も周りも快適に過ごせるように」、「自分で考えて行動する」のを「当たり前」にしていけば、おのずと「剣」も正しくなっていくのではないかと思います。

ただ、褒めてもらいたい訳でも、格好つけている訳でもなく「自然に」やっていたとしても、やはり人間ですから他人の目というのは気になるものです。芸人で仏教にも造詣が深い「笑い飯」の哲夫さんは、「縁側」について次のように語っています。

ここからこうはこうって分けるとそこに「垣根」をイメージしてしまいましたが、そこは「縁側」って思ったらええんやって僕は思います。 笑い飯 哲夫

宗教や国の違いは人を隔てる垣根のように思われていますが、それは「縁側」、つまり人をつなげる「縁」の生じる場所ではないか、靴を脱がずにちょいと腰掛け茶飲み話をする、そんな互いの「際」が触れる場所、『そこがittyちゃん景色ええんちゃうか』、と述べています。今話題にしているのは宗教や国の違いではありませんが、相手が「自分とは違う世界の人」と思ってしまうと、そこに「垣根」が生まれます。ごみを拾っている人、掃除をしている人、重そうなものを運んでいる人を見かけた時に、そこに垣根を作らず、「お疲れ様です」「ありがとうございます」「手伝います」と言ったり、自分が逆の立場の場合に「一緒にやりませんか」というように、心を開いて「縁側」で茶飲み話でもするかのように行動したりすることができれば、そこに垣根はなくなり、大げさに言えばおのずと「心を正す」ことになるでしょうし、そういう人には自然と「協力したい」「助けたい」という人が集まってきて、遠回りのように見えても結果的に自分が成し遂げたいことに近づいていくのではないかと思います。

日々勉強や部活動に忙しくしている北高生の皆さんの「気づき」に期待しています。

※お気付きの点や、御意見・御質問などありましたら、下に記入の上、お子さんを通じて担任まで御提出ください。

今治北高校の日々の様子をホームページに掲載しています。「今北日記」「生徒の活動」「部活動」など、ぜひ御覧ください。

今治北高等学校 学校公式サイト <https://imabarikita-h.esnet.ed.jp>

----- 切 り 取 り -----

____年 ____組 名前_____